



おがさわら

# 議会だより

第 117 号

平成 27 年 8 月 23 日発行 発行／小笠原村議会 編集／議会だより編集委員会 電話 04998-2-3118



6 名の村議が硫黄島訪島事業で旧島民の里帰りに同行しました

## 平成 27 年第 2 回村議会定例会

第 1 回臨時会（議案審議）	2
第 2 回定例会（議案審議）	3
一般質問	4
委員会報告	8
出張報告	10
編集後記	12

## 第 1 回臨時会 (4 月 30 日)

# 臨時 会回 第一

選挙後初めての議会では次のことが決まりました。

- 議長……………池田 望
- 副議長……………杉田 一男
- それぞれの議席
- 議会運営委員会を設置しました。  
委員長……………稲垣 勇  
副委員長……………安藤 重行
- 総務委員会を設置しました。  
委員長……………佐々木 幸美  
副委員長……………清水 良一
- 監査委員 (議員選出)  
……………鯉江 満



## お知らせ

他にも可決された議案はありますが、村民生活に密接しているものを中心にお伝えしています。詳しくは会議録をご覧ください。

### ? 会議録が読めるのはどこ?

- 村のホームページ
- 役場議会事務局
- 福祉センター
- 母島支所 村民会館



## 第2回定例会（6月11～12日）

# 定第 例二 会回



6月の議会では、次のことが決まりました。

● 選挙管理委員と委員補充員の指名選挙

委員

小笠原 美恵子 氏  
田口 茂 氏  
伊藤 亜玲 氏  
山田 良一 氏

補充員

成田 真人 氏  
藤本 美樹 氏  
吉井 信秋 氏  
菊池 武博 氏

● 小笠原空港推進特別委員会を設置しました。

委員長……………一木 重夫  
副委員長………清水 良一

● 硫黄島調査特別委員会を設置しました。

委員長……………杉田 一男  
副委員長………安藤 重行

### 次回は9月

議会だよりは、紙面の都合上、  
文章や内容を割愛したり、  
要約したりしてお伝えしています。  
ぜひ、傍聴してみてください。

地デジの11チャンネルも  
ご利用ください。

※ 議長のコーナーは次回からお知らせいたします。

# 一般質問

## 6 月定例会

第 2 回定例会は、7 名の議員から 13 件の一般質問がありました。



**沖港外防波堤について**  
**佐々木議員** 来年 7 月には新造のおがさわら丸、はじめ丸が就航するが、母島の東港は現在そのまま利用する形になる。冬場の就航を確かにするため沖港の外防波堤内にもう一つ防波堤を設置し、港の静穏性を保つことを提案したい。

**村長** 父島・母島間の安定した運航の確保は、母島の村民や来島者にとって大変重要な課題だ。村としても、提案の防波堤新設について、東京都や国に対し、村議会とともに要望していきたい。

**佐々木議員** 村長が東京都港湾局を訪れた際の、局長等の



**佐々木幸美 議員**

対応の様子を伺いたい。

**村長** 東港の新たな活用が難しいのは数年来の要望活動でわかってきた。今回の提案は、はじめ丸の安定運航のための現実的な案だ。港湾局では、どういうときが一番困るかと具体的に聞かれた。数字的な就航率の問題ではなく、おがさわら丸との接続等でも、はじめ丸の欠航が起これば、観光、生活の面からも大変苦労しているという話をした。感触としては、我々の声を前向きに受けとめる姿勢に思えた。

**振興費補助で実現可能に**  
**佐々木議員** 防波堤計画になれば、国の振興費補助で国が 9 割、都が 1 割となると思うが、それはどうか。

**村長** 6 月 26 日に振興審議会がある。今まで東港の活用を訴えてきたが、その場で審議会委員、国土交通省、東京都の出席者に新しい考え方を示すことが第一歩になる。議会の合意形成もしてもらって議長と出席し、ここでまず発言していくことが肝要と思う。

## 鮎江 満 議員



### 村の安全・安心について

**鮎江議員** 昨年の中国サンゴ密漁船については、巡視船等の頻繁な海域巡視により見かけなくなった。6月2日には、海上保安庁、警視庁、村役場や関係官庁が、洋上の不審船、陸上の不審者取り締まりの合同訓練を行った。こうした動きをフォローする自警団的な組織や、監視カメラ等には小笠原でも必要なのではないか。

**村長** サンゴ密漁船については、陳情要望に対応した活動で現在小康状態だが、気を緩めないことを関係機関にお願いしている。先日の関係機関による合同訓練は、取り締ま

りの意思を村民に伝えるものとなったのではないかと。平成26年6月に、村と小笠原警察署は安全・安心の実現に向けて覚書を交わし、相互協力とあわせ、安全に係る環境整備に努めることとしている。

**総務課長** 小笠原の現状では、街頭防犯カメラの設置は必要ないと考える。また、自警団よりは、警視庁や海上保安庁による警戒態勢強化と対処を引き続きお願いしていきたい。

### 川の暗渠化で通学路確保を

**鮎江議員** 子供等の交通事故の発生も心配だ。視界をさえない学校前のタマナの木の移植や、悪臭を放つ大村川を暗渠化し通学路等への転用は考えられないか。

**建設水道課長** タマナの枝は剪定し、警察はカーブ注意の掲示をし、役場はカーブミラーを設置している。大村川の暗渠化は、管理者の東京都によれば維持管理上課題が多いとの話だ。通学路の確保、大村川の清掃は再度、関係機関と協議していく。

## 清水 良一 議員



### 選挙に村民の積極的参加を

**清水議員** 選挙では村民と接点がとりにくい。合同の演説会を開いたり、ガイドライン的なものを村民だよりなどで知らせることはできないか。

**総務課長** 個人演説会を複数候補者が合同で開催することは可能だが、選挙管理委員会とは合同個人演説会を村民だよりなどで推奨するガイドラインを示す立場にはない。

### 今後のエネルギー政策ほか

**清水議員** 蓄電池がかなり進歩している。蓄電池を使い、系統に接続しないオフグリッドでの施策が考えられないか。

**村長** 再生可能エネルギー活

用は災害時のエネルギー確保の観点から、公共施設へ太陽光発電、さらに蓄電池の連系導入を検討するとされている。

**環境課長** 公共施設への太陽光発電導入は進んでいるが、目指せる幅は数%だ。オフグリッドの形での導入は、コスト負担等で広がらないのではないかと。今後の検討が必要だ。

**清水議員** 扇浦浄水場跡地に村民が必要なものをつくれれば新しい動きも出てくるのでは。

**村長** 扇浦地区は、①海に親しみ自然を満喫できる観光交流拠点、②ゆとりとくつろぎの住宅地、③自然との新たな共生を目指す、の3点を踏まえ整備すべきとされている。

**総務課企画政策室長** 第2原水調整池を地下整備の予定だ。

**清水議員** 村民がキャンプに行ける仕組みにできないか。

**産業観光課長** 観光客や村民の区別なく、キャンプ禁止条例の廃止は考えていない。ただ、小笠原村キャンプ禁止地域審議会の意見を聞くとあり、審議会を活用して議論できる。

## 杉田 一男 議員



### 中国船介入後の漁業振興は

**杉田議員** 昨年来の中国船による介入で、小笠原の漁業が

大きな打撃を受けた。しかし、国交省や海上保安庁の緊急補正予算には小笠原村関係はなく、水産庁の漁場調査費のみがあるだけだ。父島、母島の両漁協が受けた被害には、国や都の間接的な支援ではなく、直接支援が必要ではないのか。どんな支援が考えられるか。

**村長** 中国船への対応としては、国や都に対し陳情・要望活動を行ったことで、海上保安庁や水産庁による警戒監視活動が継続され、また影響調査や漁業者による監視活動

への支援を補正予算化してもらっている。村として漁業者に役立てる支援をしていきたいが、それは両漁協と意見交換をしながら進めていきたい。

**杉田議員** 荒らされた海では魚はとれない。漁業者は遠方に出かけざるを得ないので燃料代は倍かかっているが、水揚げの数字にその部分は入っていない。そして漁場回復には20年、30年単位の長い時間がかかる。都や国の支援が追いつくまで、ぜひ村として支援してもらいたい。

**村長** 国や都にも今まで以上にお願ひしていくが、両漁協と相談しながら、村としてできることをやっていきたい。

### 燃料費補助の支援はどうか

**杉田議員** 手っ取り早い直接支援は燃料費の補助だ。支援を迅速にやってもらいたい。

**産業観光課長** 父島の漁協に話を聞いたが、一般的なものではなく中国船に限定した支援を求めている。支援については、今後とも両漁協と相談しながら検討をしていきたい。

## 稲垣 勇 議員



### 父島の農業振興策について

**稲垣議員** ①母島に比べ遅れをとっている父島の農業振興をどう図っていくのか。②中

ノ平の自立農業支援団地の空きに対し継続使用を考へては、新規農業者を入れるつもりはあるか。③トマト主流の地産地消品目を増やす考えは。バナナやパイヤはどうか。

**村長** 父島の農業振興の課題は農地問題。これまで農用地利用集積計画制度を活用し、原野を農地化するなど努力をしてきた。青年就農給付金制度も活用している。短期間で改善できる方策はなく、地道な取り組みを積み重ねていく。

農協については、現在進行の抜本的な改善計画で経営基盤が強化され、農業振興により積極的に参画できる体制を期待している。農協、都、村が連携し、道を開いていきたい。

**産業観光課長** 中ノ平自立支援農業団地は必要なら計12年までの継続利用が可能だが、今年度12年の終了を迎える農業者2名の後の利用希望者が出る可能性は低い。制度の見直しの検討を行っている。ただ、新規就農者支援も、ある期間村に居住し一定の農作業従事の経験を求めている農業団地の現行規定の考へのもとに運用していきたい。地産地消は、村では事業者や農業者が主体となって推進される状況。作目の選定などの判断は、各農業者の裁量に任せるべき。また、農業者だけでなく、漁業者、観光業者の各団体がまとまったの意見交換は難しいのが現状だ。村は地産地消の流れがさらに進むよう、各団体個々に対応しながら、後方支援をしていく考えだ。

## 安藤 重行 議員



### 福祉の動向と対応について

**安藤議員** 福祉施策の重点取り組みを伺う。①シルバー人材センター設置はどうか。②障害者支援法の説明資料を作成し広報してほしい。③子育て支援をどう進めるのか。④遊具や砂場の点検については。

**村長** 高齢者福祉では、地域支援事業の実施に向け体制づくりを、障害者支援は社会福祉協議会等関係機関と協議を、子育て支援は国の新支援制度に基づき充実を図っていく。

**村民課長** ①は、社会福祉協議会で事業実施を検討している。村も相談していききたい。

②は、村が行える必要な支援についての周知や説明資料の

作成等は早急に検討したい。  
③は、父島、母島の保育所建てかえに合わせ、多様化する支援のあり方を検討している。  
**総務課長** ④は、各所管課でしっかり管理していくが、不具合があったら一報願いたい。

### 近地震時の危機管理は

**安藤議員** 近地震の場合に、村民がわかりやすいハザードマップや本部体制マニュアルの周知のほか、きめ細かなアナウンスが不足していないか。

**村長** 大きな揺れはまず高台へ避難が、近地震の際の基本的行動だ。村民全体への浸透をさらに検討していききたい。  
**総務課長** 地域防災計画では、自助・共助・公助を基本とし、防災訓練は遠地震を想定して行っているが、時間の余裕のない近地震では行動が単純化されないと混乱を招く。地震時、村職員は計画された配備地へ向かうが、村民には揺れがおさまったらかく高所に逃げる行動パターンを進める方策を考えていきたい。

## 一木 重夫 議員



### 待機児童の受入れについて

**一木議員** 待機児童が発生した。島っ子が帰ってきて保育園が一杯で働けない、そんな島でいいのか。社会福祉協議会と相談して、緊急避難的対応はできないか。

**村長** これ以上の受入れは困難。村も保育園建てかえ計画の中でサービス内容等を検討している。

**村民課長** 社会福祉協議会他的手だてを相談してみたい。

### 環境保全について

**一木議員** 環境保全にふるさと納税への呼びかけを強化し、寄附者へのお礼の特産品にし、事後レポートを送付し

てはどうか。  
**村長** ふるさと納税の枠の拡大、手続簡素化でPRを実施していく。

**一木議員** 自主自立のために入島税導入を検討してはどうか。観光客1人当たり消費額は15万円でヨーロッパ旅行並み。小笠原は国内ではなく、入域料が常識な海外のエコ観光地と比較すべき。入島税はむしろエコ観光地のステータスになる。  
**村長** 環境課を中心に精査をしていきたい。

### 学力向上について

**一木議員** へき地だからこそ恥ずかしくない学力を身につけさせたい。学力日本一を目指さないか。子供たちの学力向上の見解を伺う。

**教育課長** 学力向上のためには学校だけではなく、家庭での取り組みが非常に重要だ。



# 総務委員会

委員長 佐々木 幸美

副委員長 清水 良一

## 中国船問題

・中国漁船の船長が裁判で有罪になった事、寶石サンゴの被害状況が報告されました。

## 世界自然遺産

・世界自然遺産の核心的な価値である兄島のカタマイマイが、ネズミ被害により危機的状況にある事が報告されました。



母島のウミガメ孵化産卵場にもネズミ被害がある。兄島以外のネズミ対策も必要では

ないか。

佐々木委員長



兄島の対策が一段落したのち、父島母島のネズミ対策を議論しなくてはいけない。産業観光課と相談をしながら進めたい。

## 防災道路

・住民説明会の様子などの報告がありました。防災道路に関する各委員の意見表明をしました。

防災道路の必要性は全委員が理解を示しました。

・防災道路は震災以降、議員が一丸となって要望してきた。ここで防災道路ができなくなると、小笠原の信用にも関わり、今後の他の事業にも影響がでてくる。

稲垣委員

・チリ津波を経験した方から、当時奥村地区が完全に分断されたときいている。人命救助などを考えると非常に問題だ。

杉田委員

・固有種の生息地に配慮したエコな工事をしていただきたい。

鯨江委員

・以前、防災道路の必要性に疑問を感じていたが、陸前高田の被災ボランティアに参加して考えが変わった。本土と小笠原の両方が被災した場合、救援が大幅に遅れる。防災道路は物資、患者、水を運ぶ命をつなぐ道路になる。

一木委員

・清瀬の道路は道がせまく、防災道路の整備だけでは危険。釣浜の遊歩道を車が通れるくらいの整備が出来ないか。

安藤委員

・今まで小笠原には地震がないと思っていたが、そうではないことは明白になってきた。だが、何時起こるかかわらない災

害のための整備でなく、今村民ができることはなにかを考え、優先順位を明確にしてもらいたい。

清水委員

・今後、扇浦地区が開けて、住人が増えることを考えると、津波被害で地域が分断されるのは問題だ。

佐々木委員長

・震災もあり、多くの村民が防災道路は必要であると理解したと考える。貴重種の群生地を橋梁やトンネルで保護する等、自然遺産にふさわしい道路にしてもらいたい。村民や観光客の安全につながる。

池田議長

振興開発事業概算要求

**問** 母島の保育園予定地が決まらないと

きいているが、見通しを出さないと母島島民は不安だ。

池田議長

**答** 目星をつけた高台の土地が、土砂災害の危険指定地区になる

可能性がある。都は28、29年で調査を行う予定だ。土砂災害の危険地域になっても高台に建てるか、それでいいのか、多角的な視点で検討をしている。しかし、母島の方には切迫した問題であり、何年もかけるわけには行かないと考えている。

**問** 母島の保育園について、特に母島を

優先してやりたいと執行部は話していたが、情報が一切流されていない。

佐々木委員長

**答** 今後、粗相のないよう情報提供していく。

H 28 東京都予算要望

**問** 発電所の防潮堤よりも都住の太陽光

発電システム要望を重点要望に出来ないか。

清水委員

**答** 防災の視点から同時進行で要望して

行く考えだ。都住の建替の際、計画が具体的になってきた段階で太陽光発電などの要望を上げて

いきたい。

そのほか、おが丸は丸の新造船、硫黄島の訓練など報告がありました。

**次の議会は  
9月8日から！**  
テレビ中継しています！  
詳しい日時は、防災無線  
などでお知らせします。

### 〽三宅村議会の親善訪問〽

6月1日、三宅村議会の議員団が父島と母島を親善訪問しました。池田議長の案内で、小笠原空港候補地の1つである洲崎や、外来種対策の柵などを精力的にご視察頂きました。意見交換の場では、世界自然遺産やエコツーリズムの仕組みについて質問が相次ぎました。私は三宅村の航空路線の現状や課題について詳しくお話を聞きました。同じ

悩みが多い島同士、今後交流を深めることができればと思います。(一木)



### 議員研修報告

5/11〜5/26(都内/埼玉新都心)  
5/15(金) グランドアーク半蔵門で都内の町村全議員の研修が開催され、テーマが『里山資本主義と都下町村の活性化』の講演会があり、とても面白いものでした。将来の小笠原村の人口形態も予測してありました。バランスの良い方向にかじ取りをしていくことが、安心して住める島づくりを推進できると、再認識できた研修でした。

また、中国サンゴ船の対応の御礼。飛行場開設のお願い。新議会体制の挨拶等。各会派議員の先生・関係行政機関への御礼と陳情。行政情報の収集のために伺い、快く対応いただき大変感謝いたしております。(安藤)



## 硫黄島訪島事業を終えて

6月14日 早朝、おがさわら丸のデッキへ行くと、朝焼けをバックに硫黄島がシルエツトで見え硫黄の匂いが「ぷーん」と鼻を突いた。日米合わせて30000人近い戦死者をだした玉砕の島、小笠原村最大の島に最近なった島。



通船開始、慰霊祭会場の硫黄島島民平和祈念墓地公園へ向かった。この公園は1990年3月31日に未来永劫平和を願って、島民墓地の後に建設された。慰霊祭会場の建物は白く、青い海、青い空にくっきりと浮かんでいる。静かで平和な時間が流れ、村長の式辞から始まり、追悼の言葉の後、参加者全員の献花が続く、小笠原の中学生

達がこの日のために準備した誓いの言葉が始まり、そのあと全員で「故郷の廃家」という歌を歌った。

この歌は、戦闘が激化する中、豪から顔を出した、少年兵たちが硫黄島の夕陽を眺めながら一人二人と歌いだし、大合唱となった歌だそう。なんとも言い難く少年たちの悲しみが伝わってくる。

午後からは班別となり旧島民の出身集落へ里帰りに同行した。私は、



島の南東側の玉名山部落の方へ出かけた。私の硫黄島のイメージは火山島で雨も少ない枯れた感じの島だったのだが、島の東へ行くとまさにジャングルという雰囲気に変わっていく。そんな中、旧島民のお年寄りたちが、そのジャングルの中に入り、「この木は覚えてる」とか、「ここに洗い場があった」とか、「この先にパイナップル畑があったはず」という言葉に、行ってみると今でもパイナップルがなっていたりして大騒ぎだった。そして、ここにまた、住みたい人が泣いていた。

この島は住みたい人が住み、行きたい人が自由に行ける島に、そして、遺骨収集ももちろんだが、世界に戦争の愚かさ知らせ続ける世界平和のシンボルとなる島にしなければ本当の意味での戦没者への供養にはならないのでは、とつくづく感じた。そして返還50周年に向けて世界へ平和を発信する島にしたいものだ。 World Peace

清水良一



# 住民の声

**議会だよりの  
文字をもっと  
大きくして！**

**子育て支援を  
充実して！**

**日よけ付きの  
休憩所を  
増やして！**



村議会は住民の代表です。ぜひ、ご意見・ご感想・ご要望をお寄せ下さい。  
今後、議会だよりでご紹介させて頂く場合があります。  
電話 2-3118 FAX 2-3208 gikai@vill.ogasawara.tokyo.jp

## 編集後記

議員になって、兎に角、覚えなければならぬことが多い、あたふたとしていますが、議員選挙、初議会、議員研修、三宅島の議員団との交流、硫黄島墓参り、4月～6月までは大忙しでした。身構え、気構え、心構えがつくづくしっかりやらなければならぬと、身を持って感じました。一本議員から提案があり、議会だよりの紙面を変えていきたいのとこと。大賛成でした。もともと高齢者の方々から見難い青字、文字の小ささ、一面の議員集合写真などいくつか指摘を受けていました。

少しでも村民の皆様にご覧いただけるような紙面づくりをしていきたいと思えます。

安藤 重行

議会だより編集委員

一木 重夫  
安藤 重行